



佃月島新聞を毎月サポートいただいている企業サポーターを紹介いたします。おかげ様で発行が継続できています。

Cheers株式会社・ハートベルカンパニー株式会社・ジャストリサーチ株式会社・一般社団法人ココラボ・株式会社グローバルケア・株式会社トラソル・株式会社東京メンテナンス管理 誠にありがとうございます。

発行：編集人 佃月島新聞制作委員会 佐久間保人
編集室 〒103-0014中央区日本橋蛸殻町1-5-1-3F ㈱ハートベルカンパニー内
電話：050-1746-8579 メール info@tsukutsuki.com HP tsukutsuki.com



つくつきLINE公式
アカウント開設

シニアのデジタルライフをみんなで応援しませんか！

今回もつくつき電子版増大号 tsukutsuki.com ホームページ限定

「マイクローツーリズム」や「地域」や「コミュニティ」に逆戻りしている感じで、そんな中で地域新聞や雑誌が担う役割はもともと大きくなると思う。電子版いいですね。SNSの評判も上々で素晴らしいです。これ、地元の方々はメール配信で読んでいらつしやるのかしら？

皆さんのITリテラシーがどこまで上がるかが、今後の読者層拡大の肝なのでしょね。PCの会社さんとかに頼んで、無料パソコン教室とかありかもですね。つくつき協賛！

令和3年(2021年)
1月10日
発行：1
編集室：〒103-0014
電話：050-1746-8579
電子版増刊34.5号

読者からのメール
「オヤジの4時から飲み」魚仁で知り合った「リバポ住民カップル」(リバーポイントタワーに最近転居)さんからこんなメールをいただきました。電子版を見ての感想です。

このコロナ禍であんなにグローバルバル、グローバルバル言っていたのが、R65月島カフェでのIT相談会での話、編集長は現役時代、企業のユーザーサポートを担当していました。そんなことからシニアの方のパソコン・スマホなどの相談をよく受けます。つくつき新聞のコラムで「シニアのためのIT相談会」でそんなシニアの方の事例をネタにしてみました。



徳さんのガラケー脱出
スマホ作戦
高校時代の同級生徳

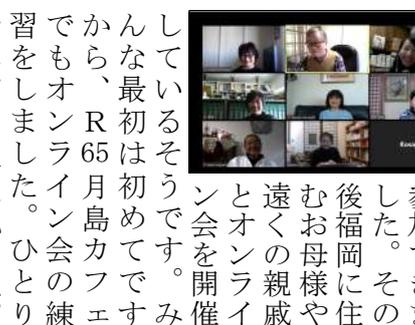
さんは競馬好きの元寿司職人。頑なに「ガラケーでいいんだ！」といていました。料金が下がること、競馬投票もできることを条件にスマホに替えました。今はスマホを使い回して、LINEでメッセージや電話がきます。今後も、携帯料金はさらに安くなりますね。

トラブル解決
急にキーボードが反応しなくなった80代Kさんのワイヤレスパソコンは乾電池切れでした。急にディスプレイが薄暗くなってしまう70代Yさんのは3秒で元に戻りました。

薦めたリフレッシュ中古パソコンとGoogleサービスを使ったデータ移し換えで大満足！この3万円以下の格安中古パソコンは10人ほどの読者に薦めました。外側は企業でリニアアップしたパソコンですが中身は最新型のPCの性能です。サクサク動きます。

昔20万円で購入したWindowsXPを使っていたアッコさんに買替えの相談を受けました。

デジタル庁にシニア対策室を作れ！
世界でも稀な超高齢化社会を迎える日本ですが、デジタルに弱い「デジタル・デバイド」はまだ多く、デジタル化の恩恵を受けていません。企業や行政がデジタル化を進めてもそれを使う消費者や市民の30%以上がシニアなのです。



二人も無事参加できました。その後福岡に住むお母様や遠くの親戚とオンライン会を開催してはじめてです。みんな最初は初めてですが、R65月島カフェでもオンライン会の練習をしました。ひとりではできませんからね。

この電子版をご覧になっていない方々は、3月号紙面で再度参加募集をしますが、今ご覧の皆様、地域DXの初めの一歩として、ぜひ周りの方々へお声がけをしてみませんか？
地域DX活動への提案は次ページで！

つくつきLINE公式アカウント開設
ぜひお友達登録をお願いいたします。編集長が必死に勉強中です。これって町会・自治会や地域団体、商店の販促コミュニケーション手段で使えます。ほとんど無料で開設できると思います。一緒に勉強しましょう。



新しい地域活動を立ち上げます つくつきDX計画

佃月島地域住民のデジタルライフを共にささえます

一面からの続きになります。電子版増大号だからこそこんなことができます。

DXってなに?!

この頃いろいろなるのでこの言葉を聞くようになりまし。

通産省が提唱しているビジネス向けの考え方のようです。



Digital Transformation からきており、略称である「DX」は、「TransをXと省略する英語圏の慣例からきているようです。あるサイトでは「IT（情報技術）の浸透で、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」と。だんだんわかってきました。デジタル庁なんかも政府のDX化なのですね。

一面の記事についてはまた「リバポ住民カップル」ケイコさん（リバポイントタワーに最近転居）に事前に見ていただきご意見を頂戴しました。紙面の関係で要約させていただきますました。

地域の充実が私たちの日常の喜びや生きがいにつながります。

私が思うDXは、デジタルで「ビジネスモデルや組織の在り方、商品、サービス、人材起用方法、そして企業文化や風土を変革させていくこと」つまり、「激しい環境の変化に対応して、昔でもなく未来でもない、今ここにありたい人生を大切に考え、余すことなく謳歌すること！」なのかな？と。ここからですが、その関係性はあくまでも「フラット」対等、ここ大事だと思えます。コミュニケーションが一方通行ではなく、「双方向」で存じの通り、「Twitter」や「Instagram」のSNSは、私たちのプライベートとパブリックの懸け橋で、さらにコミュニケーションが「双方向」ですよ。一方通行ではないのです。なのでたとえば、シニア版も「教えてあげる」

「教えてもらう」から、「ともに学び合う」ってことです。シニアする感覚。ケイコさんのおっしゃるとおりなのです。

DX計画はこうしたビジネス改革の手



法で、地域をより過ごしやすく快適なものにしていくものと思っ

ています。そのため企業・商店・商店会・振興会などの持っている経営資源やシニアやビジネス現役世代の知見や若い方々のITリテラシー、行政や町会、自治会、各種ボランティア団体など組織力を結び付け、共有することが必要と思えます。「フラット」対等、「双方向」「シニアする感覚」肝に銘じます。

新規Lenovoにリニューアル中です。何か経験上でお手伝いできることがあるかもしれません。佃二丁目さん



それはちよどいいですね。

まずはガラケーから脱出したな

①「ガラケーからスマホへ」
②「スマホ活用術」
③「LINEで無料家族電話」
④「PCお困り相談会」
⑤「オンライン会開催」など段階に合わせて開催します。会場は グローバルケア元氣プロジェクト・R65月島カフェ、中央区の通いの場などでの出張講座も開催できます。電話相談やリモートでのサポートができれば一流企業なみです。



シニアの違ったデジタルスキル段階で相談会を実施

なく活用されていません。また高齢化している町会役員さんではHPもLINEの運用もなかなか難しいかたもありません。主に各種団体のHP作成やLINE公式アカウントの作成運用をお手伝いします。若い住民を巻き込んで町会・自治会の広報をフォローしていきます。読者から他地区の自治会の「LINE」運用の情報を頂戴していただきます。防災対策の情報告知をメインに町会・自治会の方にアプローチして行きたいと思えます。

つくつきDX商店街版

この頃は新聞を契約している方が少ないそうです。新聞を購読しない住民に、「LINE公式アカウント」から商店の特売情報を配信します。例えばリンコス・マルエツ・ダイエーの本日特売情報、地域の新規出店情報などで



活動にご賛同いただき、ご協力いただける読者の方を募集します。